

石田堤

～石田三成の水攻めの跡～

荒川上流部改修から
100年
1918-2018

荒川、利根川の水を引き込み、忍城を水攻めにするため全長14kmにわたり築かれた石田堤が見られます。現在も点在して残っています。

石田堤推定図（行田市博物館展示資料を基に書き起こし）



石田堤現存部



石田堤史跡公園



石田堤碑

石田堤とは

1590（天正18）年石田三成が忍城を水攻めにすべく、元荒川の自然堤防の一部等を利用して築いた堤が石田堤です。この時、三成の城を落とす作戦は、城の周囲に14km（28km、4kmとする説もあり）もの堤を築き、荒川と利根川の水を城内に流しこむ水攻めでした。この地域に点在していた古墳を取り崩しその土などを利用して自然堤防を補強して繋ぎ短期間で堤を築いていったと推測されています。一説には堤をわずか5日間で築いたともいわれていますが、当時の記録から忍城攻めが始まって約1か月後の7月前半にも堤の補強等を行われていたことが伺えます。突貫工事で築いた堤を水攻めしながら補強していたようです。

さすがの忍城も約1ヶ月の攻防のはてに開城となりましたが、日本でも数少ない水攻めの史跡として知られ、現在は、行田市堤根地区に残る282mが埼玉県指定史跡に指定されています。また鴻巣市袋に残る約300mが鴻巣市指定史跡に指定されて、石田堤史跡公園として整備されています。

▶ 忍城（行田市）

1478（文明10）年頃、成田顯泰により築城されました。守りやすく攻めにくい難攻不落の名城であったと伝えられています。

1590（天正18）年豊臣秀吉の関東平定の中で戦われた石田三成による忍城水攻めにも耐えこの城は水に浮くのかと恐れられ「忍の浮城」とも称されたといひます。

1639（寛永16）年時の老中阿部忠秋が入城し忍城大改修に着手。孫の正武の代にいたり忍城御三階櫓の建設、城門土堀の修築などが完成し面目を一新しました。

1823（文政6）年伊勢の桑名から松平忠堯が移封し忠誠のとき明治維新を迎えました。忍城は維新後取り壊されてしまいましたが、1988（昭和63）年に御三階櫓が再建され、現在に伝えられています。



忍城の御三階櫓

▶ 三成の忍城攻め

天下統一を目指す豊臣秀吉は、総勢24万とも言われる大軍を派遣して、1590（天正18）年4月には北条氏の小田原城を包囲し、北条方の関東地方の諸城を攻め落としていきました。そして6月の初めに石田三成に、2万の軍勢を率いて北条氏に従う忍城を攻めるよう命じました。

三成の軍勢が忍城を攻めたとき、忍城主成田氏長と弟の泰親は、将兵を率いて小田原城に入っていて、城代成田泰季らが忍城の守りに当たっていました。城内に周辺の領民が逃げ込み、城には雑兵・百姓・町人・女子供らも含めて総勢2700人余りが入っていたと後世の忍城戦記には記されています。また、6月7日には城代成田泰季が急死し、代わって息子の成田長親が城代になったと後世の成田記に記されています。

三成は、6月初旬頃に布陣して丸墓山の上に立ち、その地形から忍城を取り囲むように堤を築いて利根川、荒川の水を引き込み城を水攻めにすることを決めたと伝えられています。しかしながら実際には秀吉の強い意向で水攻めは行われたと推測されます。

結果的に水攻めは、忍城に直接的なダメージを与えられず、忍城戦記、成田記などの後世の軍記物では失敗したとされています。



三成が布陣したとされる丸墓山

コ ラ ム 忍城おもてなし甲冑隊

1590（天正18）年、石田三成率いる豊臣秀吉軍が行った水攻めを耐え抜いたエピソードは、数々の物語の題材になっています。

戦国時代に秀吉軍と対峙した成田家の勇猛果敢な武将達をモデルに「忍城おもてなし甲冑隊」が結成されています。

主な活動内容として、忍城址・郷土博物館を中心に市内各所で観光客との記念撮影、勇壮な演舞パフォーマンスの披露などを行っています。



忍城おもてなし甲冑隊

アクセス

石田堤碑、石田堤史跡公園

交通：JR線「吹上駅」下車、徒歩約15分

住所：埼玉県行田市堤根



石田堤

